

旧梅野商会主屋(砥部むかしのくらし館)

(きゅううめのしょうかいおもや・とべむかしのくらしかん)

明治 38 年建築、昭和前期・25 年・37 年・令和2年改修 木造つし二階建、切妻造棧瓦葺

旧梅野商会蔵(砥部むかしのくらし館)

(きゅううめのしょうかいくら・とべむかしのくらしかん)

明治 38 年建築、昭和 37 年改修、令和2年移築 土蔵造二階建、切妻造棧瓦葺

梅野商会は、砥部焼「梅山窯」の梅野家が設立した砥部焼の生産・流通・販売を行う商会で、主屋は販売、蔵は集荷・流通の拠点として使われていた。主屋は入口に土間、奥に居住空間である居間と庭を望む客間を設けた町屋建築である。蔵は収蔵性を高めるため、屋根をトラス構造にして内部の柱を減らし、中央部を一階と二階で砥部焼製品を上げ下ろしするため大きな吹き抜けとする。

砥部焼の流通販売を語る上で重要な建造物である。



旧梅野商会主屋 (砥部むかしのくらし館)



旧梅野商会蔵 (砥部むかしのくらし館)